

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	bamboo宇宿			
○保護者評価実施期間	2025年11月20日		～	2026年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	2025年11月17日		～	2025年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月20日		～	2026年1月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	14件	(回答数)	13件
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(主に言語聴覚士、理学療法士、作業療法士)による訪問支援の実施	専門職の独自の視点で支援内容をお伝え出来ること	訪問支援自体のあり方を理解すること。協働で支援ができる事は強みであり、どちらの支援が正しい・間違いではなく、それぞれの役割を理解し、協力して支援することで、より良い提供ができると感じている。協働するための工夫が更に充実した支援に繋がると感じている。
2	応用行動分析やPecs、リッカムプログラムなどの有資格者、スクールカウンセラーなどを経験している職員による訪問が可能	学問に基づく治療手技として支援提供が行える。	有資格者はいるものの、その経験自体は少ないため、該当と思われる幼児・児童に対して積極的に介入し、変化を観察することで児童に対してより良いメリットが得られると思われる。
3	訪問支援を利用している多くは、当事業所の児童発達支援、放課後等デイサービスを利用頂いている。	訪問支援を行うにあたり、通常の様子が分からないと十分な訪問支援に繋がりにくいと感じている。そのため、事業所での様子も踏まえて訪問支援をするように心がけている。訪問先で必要と感じられる事を事業所内での支援で行ったり、事業所内で上手く支援が行えているケースでは訪問支援先に導入頂くことで、より生活場面に合わせた支援の実施が可能と感じている。	事業所内で上手く支援ができたケースでも、訪問支援先の環境によっては導入が難しいケースがある。例えば、準備に時間を要する支援方法では、訪問支援先も通常業務を実施しながら準備する必要があるため、持続性に繋がりにくい。持続的に訪問支援先でも支援が行いやすいよう、事業所での方法を簡略化した上で導入がしやすい形で提案をする必要もあると感じている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援のスタッフが限られる	訪問は対外的な支援となり、相手の立場を尊重しつつ、専門的な支援を要することから、技術・知識面はもちろんのこと、対外的コミュニケーションが求められる。慣れない環境での訪問支援の中で、どのように支援が出来るかを検討する必要があるため、一定のキャリアや人間性の構築が求められると感じている(なお、現時点で訪問支援に従事していないスタッフが必ずしも行けないという意味ではなく、当事業所において一定のキャリアや技術等を見極めて訪問スタッフを選別しているという意味合いを含む)。	現在、訪問支援に従事しているスタッフとの同席を繰り返す中で、訪問支援としての役割を理解し、他施設に対して十分な助言、指導が行える知識・技術力を身につけていく。
2	訪問支援に必要な備品等の見定めが出来ていない	訪問支援先でどのような支援が出来るかは様々。訪問先は大変多忙であることも多いため、時間をかけず且つ支援としては効果的な方法を提供するにあたり、どのような環境構築が良いか明確に出来ていない。また、訪問支援の多くは間接支援が多いことから、助言程度にとどまるケースが多い。	訪問先で活用するにも、事業所内で実施して簡略化する、もしくは対象児が習慣化できて使用がしやすい状況まで行えれば、訪問先への導入コストも減らせるかもしれない。事業所内での支援の質を高めていくことが望まれる。
3			